

# 近世日本の銅と大坂銅商人

今井典子 著

▼A5判・三一六頁／定価：本体七、五〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1805-9

【二〇一五年六月 刊行】

近世日本は世界でも有数の銅輸出国であり、銅は長崎貿易の重要な輸出品であり続けた。また国内ではさまざまな銅製品が流通し、さらに真鍮などの銅関連市場が活況を呈した。

本書は、その最大市場である大坂の銅商人社会が成立・変容する過程を軸にして、銅の生産・流通の歴史を通覧。住友家文書や初村家文書など関連史料を丁寧に読み解き、長崎貿易の動向・幕府の統制・相場の変動なども視野に入れながら論じた本邦初の銅の近世通史である。



いまい・のりこ……

一九四二年京都市生まれ。  
一九六五年東京大学文学部（国史学）卒業。  
一九六八年東京大学大学院人文科学研究科修士過程（国史学）修了。  
一九七八年より住友修史室（のち住友史料館）勤務。  
二〇一二年退職。

## ●内容目次●

序章

第一節 本書の目的

第二節 先行研究と問題点

第三節 使用する主な史料

第四節 本書の内容と目的

第一章 大坂銅商人社会の成立と変容

第一節 大坂銅商人一覽

第二節 「銅吹屋の時代」から「銅仲買と真鍮屋の時代」への移行

第三節 棹銅の製造法・南蛮吹の効用と銅吹屋

第四節 銅吹屋仲間一七人の変容

第五節 真鍮産業の発展

第二章 大坂銅商人の長崎銅貿易

第一節 定高制

第二節 銅代物替

第三節 運上付き請負い

第四節 元禄銅座

第五節 銅吹屋仲間の長崎廻銅請負い

第三章 長崎会所の銅貿易と大坂銅商人

第一節 御割合御用銅

第二節 第一次長崎直買入れ

第三節 元文銅座の設置と荒銅買上げ方法

第四節 長崎会所と幕府御金蔵

第五節 第二次長崎直買入れとその後

第四章 地売銅と鉛鋳業

第一節 近世の地売銅

第二節 近世の鉛鋳業

第五章 元文銅座と大坂銅商人

第一節 元文銅座の鑄銭

第二節 元文銅座後半の諸問題

第三節 元文銅座の勘定帳

第六章 明和銅座と大坂銅商人

第一節 明和銅座の設置と銅の総体的統制

第二節 明和銅座の地売銅統制

第三節 古銅の統制

第四節 明和銅座の財政

第五節 専売制の継続と御用銅の廃止

終章

あとがき

索引（人名・事項）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

|      |  |              |  |                 |                       |
|------|--|--------------|--|-----------------|-----------------------|
| 注文票  |  | 発行：思文閣出版     |  | (京都 取引コード 3402) |                       |
| 冊数   | 冊  | 近世日本の銅と大坂銅商人 |  | 本体7,500円(税別)    | ISBN978-4-7842-1805-9 |
| お名前  | tel  |              |  | 書店番線印           |                       |
|      | e-mail   |              |  |                 |                       |
| ご住所  | 〒  |              |  |                 |                       |
| 送本方法 | <input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい）<br><input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い） |              |  |                 |                       |

## ※住友史料叢書

小葉田淳・朝尾直弘監修／住友史料館編

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、一時世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、その後金融・貿易なども手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、質・量ともにわが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち重要で継続する記録類を中心に編纂。

▶A5判・平均400頁／既刊29冊 楠本体266,500円(税別)

## 住友別子鉱山史 [全3巻]

小葉田淳総監修

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取扱い、下巻はそれ以後閉山するまでと更にその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事跡を理解する助けとなる図版・写真・史料等を収載した。開坑300年記念出版。

▶B5判・総1500頁／本体73,000円(税別)

ISBN4-7842-0643-4

## ※貨幣と鉱山

小葉田淳著

日本経済史研究の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する論考を集成。【内容】近世、銀・金の海外流出と銅貿易の動向／日本中近世の貨幣事情／領国武田氏の幣制と家康の幣制の確立／佐渡鑄造の金銀貨、とくに印銀通用について／近世鉱山史料について／近世鉱山経営と藩の統制／近世、日向椎葉山の銅山について 他

▶A5判・300頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-1004-0

## 伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史。

▶A5判・302頁／本体6,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1523-2

## ※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著

塩業と醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を細かく分析的、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究の一書。【内容】近世後期赤穂前川浜の開発／近世後期龍野醤油醸造業者の塩田経営／龍野藩網干新在家浜と醤油造元／近世後期における赤穂塩の流通と野田醤油 ほか

▶A5判・300頁／本体6,000円(税別)

ISBN4-7842-1287-6

## 一九世紀の豪農・名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力(領主など)と都市と取り結ぶ関係にも留意しながら総合的に検討することにより、近世・近代移行期の特質を解明するための地域社会論の提起する。

▶A5判・330頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1642-0

## ※長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期から18世紀中期の約100年間の、長崎奉行の職掌や幕府内における長崎奉行の位置づけの変化、そして長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。

▶A5判・450頁／本体6,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1339-9

## 大航海時代の日本と金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示する。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。

▶B5判・224頁／本体3,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1768-7

## 住友の歴史 [全2巻]

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易なども手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連綿と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。

上巻▶46判・286頁／本体1,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1703-8

下巻▶46判・322頁／本体1,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1762-5

## ※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著

金銀山の個別の史的研究所集した、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

▶A5判・868頁／本体19,000円(税別)

ISBN4-7842-0760-0

## 近世鉱山社会史の研究

荻慎一郎著

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。第7回高知出版学術賞受賞。

▶A5判・640頁／本体12,800円(税別)

ISBN4-7842-0900-X

## 三木金物問屋史料

永島福太郎編

三木金物仲買問屋「作清」黒田清右衛門家の近世史料を主体に、仲買問屋「道善」井上善七家、三木市宝蔵文書・市立図書館所蔵文書から金物関係史料を収録、解説と研究5篇を付した。

▶A5判・700頁／本体10,000円(税別)

ISBN4-7842-0284-6

## 日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。

▶B5判・550頁／本体12,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1345-0

## 畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家である岡田家の文書1万数千点を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／本体7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1385-6

## 近世長崎・対外関係史料

太田勝也編

「長崎御役所留」(国立公文書館内閣文庫所蔵)・「長崎諸事覚書」(同)・「長崎記」(東北大学附属図書館狩野文庫所蔵)・「長崎旧記」(筑波大学附属図書館所蔵)の4点を収める。「長崎御役所留」は、長崎奉行所に受け継がれてきた文書・記録類の編纂物であるが、この現存史料としては唯一。

▶A5判・728頁／本体16,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1362-7

## 近世上方歌舞伎と堺

齊藤利彦著

佛教学研究叢書14

元禄期以降の展開、特に上方歌舞伎が特質を大きく転換した化政期から幕末期の実態を究明する。さらに上方歌舞伎の地域的展開や興行史的検討という観点についても考察するが、こうした課題に取り組むうえで重要な興行地として、堺を取り上げる。

▶A5判・348頁／本体6,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1608-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。